

原発なくす運動さらに

4/15 福井

福井地裁決定

歓声「歴史的な一歩」

14日午後2時すぎ、福井地裁前に数百人の支援者が待っていました。地裁庁舎から出てきた申立人らが「司法が再稼働を止める」「司法はやっばり生きていた!!」と書いたたれ褄を掲げ、弁護団が「高浜原発3号機および4号機の原子炉を運転してはならない」と仮処分決定の本文を読み上げると、「やった」と歓声が上がりました。

も壇上で発言。「被災したすべての福島のみなさんと喜びをともにしたい。もし再稼働を次から次に許すならば、第2、第3のフクシマは必然。それをなんとかしても防いでいきたい。広範な世論と運動

が広がっています。原発は卒業しようとかく呼びかけていきたい」と述べました。集会に参加した福井大学名誉教授の山本富士夫さんは「今回の決定は新規規制基準について、今のままで原発が安全ではないと明確に言い切ったもので、道理ある決定です。基準にはほかに避難の問題などがあり、原発

の基準を厳しくすれば原発が安全というのは幻想。原発をなくす運動を強めていきたい」と語っていました。

不服申し立て手続きを行う方針
関電
関西電力は14日、高浜原発3、4号機の再稼働を認めない福井地裁の仮処分決定について「誠に遺憾で、到底

承服できない」とのコメントを発表しました。決定文を確認し、「当事者でないため、速やかに不服申し立ての手続きを行う方針を示しました。」

コメント避ける
規制庁
の米谷総務課長は14日の定例記者会見で「当事者でないため、直接コメントする立場はない」と述べました。



高浜原発3、4号機の運転差し止めを命じる仮処分決定の内容などを報告する集会＝14日、福井市

神戸市から20人ほどでバスに乗って駆けつけたという神戸市の西井京子さん(81)は「差し止めが命じられて、ほんとによかった。原発の規制基準がおかしいという決定と聞きました。絶対に原発をなくしていきたい」と笑顔で話しました。弁護団は、この日を「歴史的な一歩」として、国と電力会社に対し、福島原発事故という現実を直視し、高浜原発3、4号機のみならず、すべての原発の再稼働を断念するよう求めるという声明を読み上げました。



原発に頼らぬ町に

日本共産党・高浜町議 渡辺 孝さん

昨年5月の大飯原発の運転差し止め判決に続き、画期的な決定で、

原発再稼働反対の世論と運動の勝利です。対策をとっても重大事故発生の可能性が否定できないことを、政府も原子力規制委員会も電力会社も、真摯(しんしん)に受け止めるべきです。

1979年に初めて町議に立候補したとき、高浜原発3、4号機の増設問題が大きく町を揺るがしていました。当時から住民運動は妨害され、行政が強権的に原発を推進してきたことを思うと、隔世の感があります。今後、推進派の抵抗もあるでしょう。地裁決定にぬか喜びせず、

実際に再稼働を止めるまで力を尽くしたい。住民との対話では原発への根強い不安の声が出ます。「あなたという期待にこたえ、いっせいで地方選後半戦の町議選で何としても再選したい。原発に頼らない町づくりを進めるためにがんばりたい。」

全国の運動が結実

反原連ミサオ・レッドウルフさん

今回の決定は、原告団と弁護団とともに、全国各地の運動が結実した、歴史的な決定だと思います。昨年の大飯原発運転差し止め判決に引き続き、司法の

決心を感じました。各地で再稼働を許さ

ないたたかい、世論を広げていくのと同時に、政府に対してもエネルギー政策の転換を求めています。これからも引き続き、首相官邸前で「原発いらぬ」「再稼働反対」の声をあげ続け

ます。